

1. 記録物のタイトル

観世宗家伝来 世阿弥能楽論『風姿花伝』

2. 申請者

一般財団法人 観世文庫

3. 記録物の概要

世阿弥『風姿花伝』（『花伝』）七巻のうち、観世宗家に伝来する

- ・室町後期写・観世宗節署名五巻本『風姿花伝』一冊 ※（１）～（５）
- ・世阿弥直筆『花伝第六花修』一冊 ※（６）
- ・世阿弥直筆『花伝第七別紙口伝』一冊 ※（７）

の三冊からなる。

『風姿花伝』は、歌・舞を主要素とし仮面を用いて演じる日本の古典演劇である、能を大成した世阿弥（1363-1443 頃）の代表的な能楽論である。世阿弥は能の演劇形式を確立した劇作家であり、役者でもあり、さらに多くの演劇論を執筆したという稀有な演劇人であった。その著作『風姿花伝』は、芸の哲学的核心を花に喩えて論じたもので、稽古論・演技論・作品論から観客論までもを含み込む多面的な演劇論となっている。能楽は世阿弥時代から現代に至るまでダイレクトに継承され生き続けており、ユネスコの無形文化遺産の代表一覧表にも記載されている。世阿弥の父・観阿弥を祖として、そうした能の技芸を継承してきた観世宗家は、『風姿花伝』の五巻本の最古写本と、これに伴う秘伝とされた第六・第七巻の世阿弥直筆本を持ち伝えている。後者は世界的にみても現存する演劇論の著者直筆本として最古級の本であり、これらは優れた演劇論として世界的に高く評価されている。

※（１）第一年来稽古条々、（２）第二物学条々、（３）第三問答条々、（４）第四神儀、（５）奥義（奥儀讃歎）、（６）第六花修、（７）第七別紙口伝

4. 記録物の意義・重要性

本記録物は、15 世紀前半に日本で書かれた演劇論である。その著者の世阿弥は、現代まで演じ続けられて継承された演劇としては最古とも言われる能の演劇形式自体を大成した劇作家であり、役者でもあり、演劇の現場に身を置きながら、能についての思想を深め、多くの演劇論を執筆した。その演劇論の代表が、言語化困難な身体芸の魅力を花に譬えた『風姿花伝』で、演技論・作品論だけでなく観客論を含み込む多面的・総合的な演劇論が初めて文章化されたのである。花の追求は、他の世阿弥伝書でも共通した課題となっているが、世阿弥の前半生の思想の頂点を示す成果の『風姿花伝』こそ、能独自の芸術性の原点となった著作である。『風姿花伝』は、総合的な演劇論として演劇史における世界的な重要性があると考えられ、ジャン・ルイ・バロー（Jean-Louis Barrault, 1910-1994）や、ピーター・ブルック（Peter Brook, 1925-2022）、ロバート・ウィルソン（Robert Wilson, 1941-2025）など、世界の多くの演出家にも注目されてきた。特に『花伝第六花修』及び『花伝第七別紙口伝』は、特別な秘伝として観世大夫に代々伝えられており、西洋などにおける芸術の創作や技法についての考察が公共的な性格を持って公刊されるあり方とは異なる記憶の伝承形態として、特異な意義が認められる。

- ・ 室町後期写・観世宗節署名五巻本『風姿花伝』

<https://da.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/portal/assets/33d415f0-4d44-3fe7-7920-488239a3128b>

- ・ 世阿弥直筆『花伝第六花修』

<https://da.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/portal/assets/297c497d-39ff-3803-3549-68854c310de4>

- ・ 世阿弥直筆『花伝第七別紙口伝』

<https://da.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/portal/assets/258bfd52-0cb6-a2d2-23c4-dad9648f5ad3>

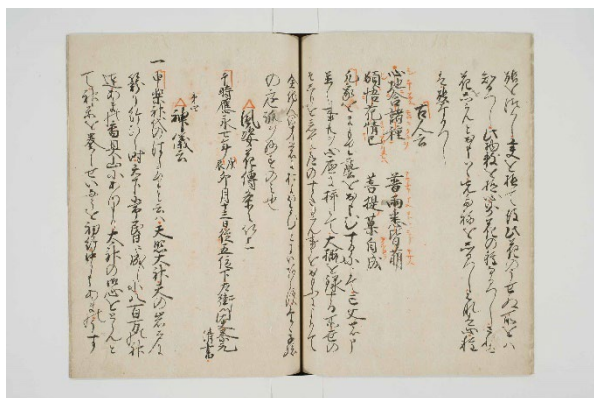
5. 問い合わせ先

一般財団法人観世文庫

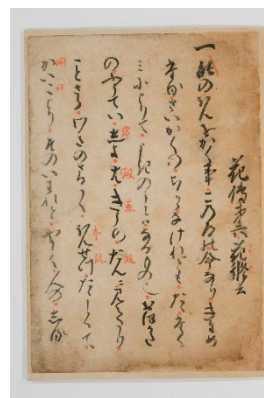
電話番号：+81-(0)3-6418-5025

メールアドレス：kanzebunko@kanze.net

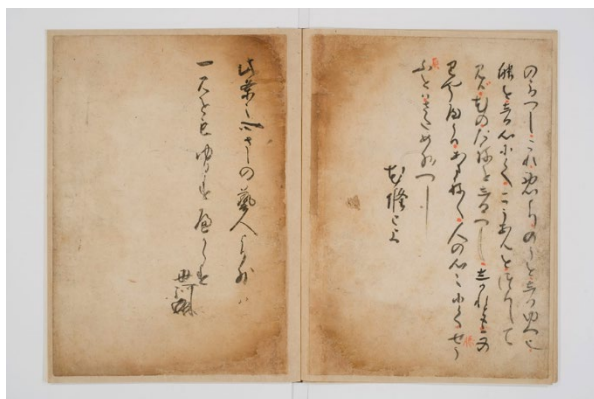
〔参考画像〕



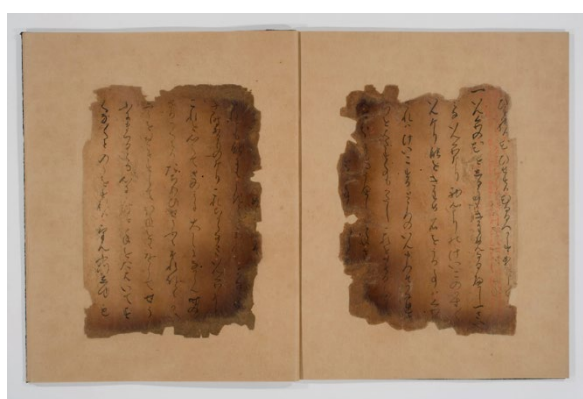
画像 1：観世宗節の署名がある『風姿花伝』五巻本の室町時代後期の写本（第三問答条々の終わりから第四神儀の冒頭にかけて）＜観世文庫所蔵＞



画像 2：世阿弥直筆の『花伝第六花修』冒頭部分＜観世清和氏所蔵＞



画像 3：世阿弥直筆の『花伝第六花修』末尾の奥書部分＜観世清和氏所蔵＞



画像 4：世阿弥直筆の『花伝第七別紙口伝』＜観世文庫所蔵＞